

佐用町からの膜翅目の採集記録

吉田 浩史¹⁾・渡辺 恭平²⁾

佐用町における膜翅目(ハチ目)の記録としては、内藤ほか(2006)によるハバチ亜目の記録及び佐用町昆虫館における2010年のマレーズトラップの記録(藤江ほか, 2011)が挙げられる。

今回は、筆者の一人吉田により採集された膜翅目と、2014年に佐用町昆虫館敷地内で行われたマレーズトラップ(詳細は後述)により得られた膜翅目について報告する。

なお、ここでいう佐用町は2015年現在のものであり、従来の上月町・南光町・三日月町を含んでいる。佐用町昆虫館は旧南光町域である。

主な採集地点の標高は以下のとおりである。
船越(佐用町昆虫館周辺) 230m, 多賀 150m。

採集者及びマレーズトラップの設置・回収はすべて吉田浩史である。

調査の結果、以下のとおり種名未決定のものを含め、8科58種の膜翅目が記録された。このうち、ヒメバチ科のオビガチビアメバチ、ニッポンチビアメバチ、タイワンハラアカチビアメバチ、ハシモトフタオヒメバチの4種は本州から初めて記録されるものであった。

同定及び本文執筆は、ヒメバチ科のみ渡辺が、他は吉田が担当した。

標本は、広腰亜目は国立科学博物館(筑波研究施設)に保管されている。細腰亜目は、基本的には兵庫県立人と自然の博物館に収蔵予定であるが、ヒメバチ科の一部は神奈川県立生命の星・地球博物館に保管することとした。

2014年のマレーズトラップ調査について

佐用町昆虫館周辺では、2010年に藤江隼平氏を中心としてマレーズトラップによる昆虫相調査が行われた(藤江ほか, 2011; 藤江・吉田, 2011)。

この際、6月に日本未記録種あるいは未記載種と考えられるハバチ科の一種が1個体採集された(上記の報告には含まれていない)。

追加個体を得るため、吉田は2014年5月10日に昆虫館敷地内にマレーズトラップを設置、同年6月11日、6月17日にサンプルの回収を行った。その後、台風8号の接近に伴い7月9日にトラップ自体を回収、以降は設置していない。そのため、2014年のマレーズトラップについては3サンプルのみである。

なお、残念ながら2014年には上記種の追加個体を得ることはできなかった。

謝辞

2014年の調査分については、国立科学博物館のコレクションビルディングフェローシップの援助を受けて実施した。篠原明彦博士と同館の担当者の方々に厚くお礼申し上げる。

確認種目録

Hymenoptera 膜翅目

Symphyla 広腰亜目

Argidae ミフシハバチ科

Arge captiva (F. Smith, 1874)

ニレチュウレンジ

船越, 1♀, 2010. VII. 17.

Arge hakusana Togashi, 1997

ハクサンチュウレンジ

船越, 1♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

兵庫県初記録。ただし、分類学的再検討中であり、今後種名が変更される可能性がある。

Arge nigronodosa (Motschulsky, 1860)

アカスジチュウレンジ

船越, 2♀, 2014. V. 10.

Arge similis (Vollenhoven, 1860)

ルリチュウレンジ

船越, 1♀, 2009. VII. 18; 同, 1♀, 2014. V. 10.

Tenthredinidae ハバチ科

Allantinae ハグロハバチ亜科

Asiemphytus deutziae (Takeuchi, 1929)

¹⁾ Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区; ²⁾ Kyohei WATANABE 神奈川県立生命の星・地球博物館

ウツギハバチ

多賀, 1 ♂, 2010. V. 10.

Athalia infumata (Marlatt, 1898)

セグロカブラハバチ

船越, 6 ♂ 5 ♀, 2010. V. 1; 同, 3 ♂ 9 ♀, 2014. V. 10; 同, 1 ♂ 11 ♀, 2014. V. 10- VI. 6 (MT); 同, 1 ♂ 2 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Athalia japonica (Klug, 1815)

ニホンカブラハバチ

船越, 4 ♂ 2 ♀, 2010. V. 1; 同, 2 ♂ 1 ♀, 2014. V. 10; 同, 1 ♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Athalia kashmirensis Benson, 1932

イヌノフグリハバチ

船越, 1 ♂, 2011. X. 9.

Eriocampa kurumivora Togashi, 1980

クルミマルハバチ

多賀, 1 ♀, 2010. V. 10.

Tenthredininae ハバチ亜科

Macrophya coxalis (Motschulsky, 1866)

クロハバチ

船越, 1 ♀, 2011. V. 15.

Apocrita 細腰亜目

Ichneumonidae ヒメバチ科

Anomaloninae コンボウアメバチ亜科

Anomalon nigribase Cushman, 1937

クロアミメコンボウアメバチ

船越, 1 ♀, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT); 同, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Anomalon 属の中では最も良く得られる種である。

Campopleginae チビアメバチ亜科

Campoplex aphae (Uchida, 1930)

オビガチビアメバチ (和名新称)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

本州初記録. オビガに寄生した記録がある (Uchida, 1930).

Casinaria japonica Kusigemati, 1980

ニッポンチビアメバチ

船越, 1 ♂, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

本州初記録. 近隣地域では愛媛県伯方島から記録がある (橋越ほか, 2012).

Casinaria sp.

船越, 1 ♂, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

Dusona sp.

船越, 1 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Eriborus vulgaris (Morley, 1912)

台湾アカハラチビアメバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 2.

本州初記録. 近隣地域では愛媛県伯方島から記録がある (橋越ほか, 2012). 南方系の種で, とくに南西諸島では最普通種.

Eriborus sp. (nr. *terebrans*)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Cryptinae トガリヒメバチ亜科

Acroricnus ambulator ambulator (Smith, 1874)

キアシオナガトガリヒメバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

ドロバチ類に寄生するため, 人家の周辺に多く見られる.

Paragambrus sapporonis (Uchida, 1930)

イラガヤドリトガリヒメバチ

船越, 3 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Ctenopelmatinae マルヒメバチ亜科

Scolobates testaceus Morley, 1913

チャマダラマルヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

マレーゼトラップではしばしばまとまって得られる種であるが, 野外で見かける機会はそれほど多くはない.

Diplazontinae ヒラタアブヒメバチ亜科

Diplazon scutatorius Teunissen, 1943

ニセクロアブヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

土手などに普通.

Ichneumoninae ヒメバチ亜科

Coelichneumon gargawensis Uchida, 1925

ガルガワヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10.

Achais oratorius albizonellus (Matsumura, 1912)

シロスジヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

平地で見られるヒメバチ亜科の中では最も普通に見られる種であるが, よく似た種が数種いる.

Ichneumon nipponicus Uchida, 1926

キアシホソヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT); 同, 1 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

平地から山地で良く見られる種であるが, よく似た種が数種いる.

Platylabus takeuchii Uchida, 1930

タケウチヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

広く分布するが, やや少ない.

Mesochorinae フタオヒメバチ亜科

Mesochorus hashimotoi Kusigemati, 1985

ハシモトフタオヒメバチ (和名新称)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

本州初記録. 原記載時には北海道, 宮崎, 鹿児島および台湾から記録された (Kusigemati, 1985) が, 間の本州からはこれまで記録がなかった.

Mesochorus semirufus Holmgren, 1860

ツマアカフタオヒメバチ (和名新称)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

各地に広くみられる.

Pimplinae ヒラタヒメバチ亜科

Brachyzapus tenuiabdominalis (Uchida, 1941)

ホソハラクモヒメバチ

船越, 1 ♀, 2011. XI. 22.

Dolichomitus melanomerus macropunctatus (Uchida, 1928)

クロコブフシヒメバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 2; 同, 2 ♀, 2011. X. 9; 同, 1 ♀, 2011. XI. 22.

Dolichomitus 属の中では最も普通にみられる種である. 枯れ木に飛来するほか, 貯木場にも多い.

Apechthis capulifera (Kriechbaumer, 1887)

コキアシヒラタヒメバチ

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Apechthis rufata (Gmelin, 1790)

キフタホシヒラタヒメバチ

船越, 1 ♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Pimpla alboannulata Uchida, 1928

シロモンヒラタヒメバチ

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

平地の森林で最も多く得られるヒメバチである.

Poemeniinae クチキヒメバチ亜科

Eugalta albimarginalis (Uchida, 1928)

シロスジクチキヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10.

各種枯れ木に飛来し, 個体数は多い.

Xoridinae マルズヒメバチ亜科

Odontocolon sp.

船越, 1 ♂, 2014. V. 10.

Trigonalidae カギバラバチ科

Taeniogonalos fasciata (Strand, 1913)

キスジセアカカギバラバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

Formicidae アリ科

Myrmicinae フタフシアリ亜科

Crematogaster matsumurai Forel, 1901

ハリブトシリアゲアリ

船越, 2exs., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Pristomyrmex punctatus (Smith, 1860)

アミメアリ

船越, 1 ♂, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

Dolichoderinae カタアリ亜科

Dolichoderus sibiricus Emery, 1889

シベリアカタアリ

船越, 1ex., 2014. V. 10- VI. 11 (MT); 同, 1ex., 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

Formicinae ヤマアリ亜科

Nylanderia flavipes (Smith, 1874)

アメイロアリ

船越, 1ex., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Camponotus obscuripes Mayr, 1879

ムネアカオオアリ

船越, 1ex., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Camponotus vitiosus Smith, 1874

ウメマツオオアリ

船越, 2exs., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Vespidae スズメバチ科

Eumeninae ドロバチ亜科

Anterhynchium flavomarginatum micado (Kirsch, 1873)

オオフタオビドロバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 2.

Discoelius zonalis (Panzer, 1801)

フタスジスズバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

Eumenes micado Cameron, 1904

ミカドトックリバチ

船越, 1 ♀, 2011. VIII. 13. 船越, 1 ♂, 2011. X. 2; 同, 1 ♀, 2011. X. 9.

Euodynerus nipanicus nipanicus Schulthess, 1908

ミカドドロバチ

船越, 1 ♂, 2011. VIII. 13.

Orancistrocerus drewseni (Saussure, 1857)

エントツドロバチ

船越, 1 ♀, 2011. VIII. 13; 同, 1 ♀, 2011. X. 9.

Oreumenes decoratus (Smith, 1852)

スズバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

Stenodynerus tokyanus tokyanus (Kostylev, 1940)

ムナグロチビドロバチ

船越, 2 ♀, 2011. X. 2.

Polistinae アシナガバチ亜科

Parapolybia indica indica (Saussure, 1854)

ムモンホソアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. X. 9.

Parapolybia varia (Fabricius, 1787)

ヒメホソアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. X. 2.

Polistes chinensis (Fabricius, 1793)

フタモンアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. VIII. 13.

Polistes nipponensis Perez, 1905

キボシアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. VIII. 13; 同, 2exs., 2011. X. 9.

Vespinae スズメバチ亜科

Vespa simillima Smith, 1868

キイロスズメバチ

船越, 1ex., 2009. VII. 18; 同, 1ex., 2011. X. 9.

Vespula shidai Ishikawa, Sk. Yamane & Wagner, 1980

シダクロスズメバチ

船越, 1ex., 2011. X. 9.

Sphecidae アナバチ科

Sceliphrinae ドロジガバチ亜科

Chalybion japonicum (Gribodo, 1883)

ヤマトルリジガバチ

船越, 1 ♀, 2009. VII. 18.

Apidae ミツバチ科

Halictinae コハナバチ亜科

Lasioglossum mutilum (Vachal, 1903)

サビイロカタコハナバチ

船越, 1 ♂, 2011. X. 9; 同, 1 ♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Apinae ミツバチ亜科

Ceratina japonica Cockerell, 1911

ヤマトツヤハナバチ

船越, 2 ♀, 2011. X. 9.

Bombus diversus diversus Smith, 1869

トラマルハナバチ

船越, 1ex., 2011. X. 9.

参考文献

藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭和也・藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相—マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について—, きべりはむし, 33(2): 4-20.

藤江隼平・吉田浩史, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相(2)—マレーゼトラップで得られた甲虫目, 双翅目, カマキリ目, 直翅目の昆虫について(追加)—. きべりはむし, 34(1): 3-5.

橋越清一・羽田義任・渡辺恭平・三田井克志・山内健生, 2012. 伯方島のハチ類. 伯方島の生物—第三次伯方島生物総合調査報告—. 愛媛県教育研究会理科部会生物部門編: 168-173, 340-344.

Kusigemati, K., 1985. Mesochorinae of Formosa (Hymenoptera: Ichneumonidae). Memoirs of the Kagoshima University, Research Center for the South Pacific, 6(1): 130-165.

内藤親彦・吉田浩史・中峰空・森田年則・池田隆直・鈴木壽也・中西明德, 2004. 兵庫県におけるハバチ類の種多様性. 兵庫県立人と自然の博物館 自然環境モノグラフ, (1): 10pls. + 85pp.

Uchida, T., 1930. Beschreibungen der neuen echten Schlupfwespen aus Japan, Korea und Formosa. Insecta Matsumurana, 4(3): 121-132.